

電機・電子業界の生物多様性保全活動と愛知目標の関連性を整理

～20の個別目標のうち17項目に関連することが明らかになるとともに、
特に関連が高く取組みやすい項目として目標1、4、5を抽出～

電機・電子4団体¹ 環境戦略連絡会 生物多様性ワーキンググループ (WG) では、電機・電子業界各社が取り組んでいる環境保全活動、ならびに生物多様性保全活動と世界レベルの目標である愛知目標との関連性を整理しました。

今回の整理では、当業界における環境保全活動、ならびに生物多様性保全活動を研究開発、調達、製造、販売、回収・リサイクルといった製品のライフサイクルと社会貢献活動などに分類し、愛知目標の20の個別目標との関連性を整理しました。整理にあたっては環境省自然環境局自然環境計画課生物多様性施策推進室からいただいたご意見も参考にしました。結果として、20の個別目標のうち17項目に関連することが明らかになりました。また、これから生物多様性保全活動を始める企業において、取組みの入り口となり得る項目として目標1、4、5を抽出しました。

目標1は、生物多様性の普及・啓発活動にかかわる項目であり、当業界では自社の取組みの情報発信によるステークホルダーへの意識啓発などで貢献が可能となります。

目標4は、生産と消費にかかわる項目であり、当業界では温室効果ガスの排出削減、化学物質の適正管理、省資源化など持続可能な生産・消費に向けた環境活動により貢献が可能です。

目標5は、生息地の破壊にかかわる項目であり、当業界では事業所や周辺地域の緑地の保全による生態系ネットワークの構築、植林等の社会貢献活動により貢献が可能です。(詳細は別紙参照)

環境省が2013年3月に公表した「平成二十四年度 生物多様性分野における事業者による取組の実態調査」によれば、アンケート調査に協力した企業(従業員500人以上、約2,600社)の75%が愛知目標について「知らない」、41%が名前自体を「聞いたことがない」と回答しています。アンケートに回答していない企業も含めれば実態はさらに低いことが予想されます。

今回の整理の結果、電機・電子業界各社が既に実施している各種の生物多様性保全活動によって愛知目標の達成に貢献できることが分かりました。また、これから取組みを始める企業は、目標1、4、5に関連する活動から開始することも可能です。知名度はまだまだ低い愛知目標ですが、生物多様性の保全は国際社会における喫緊の課題であることから、愛知目標の達成に向け電機・電子業界としても積極的な取組みの推進を図っていきます。

当WGは、2011年5月の発足以来、事例集の発行や会員企業向けセミナーの開催などを通して生物多様性保全活動の普及啓発を進めてきました。今回の成果についてもセミナーでの紹介や普及啓発・教育ツールへの盛り込みなどを予定しています。今後も電機・電子業界各社における生物多様性保全活動の一助となるよう様々な活動を進めていきます。

電機・電子4団体生物多様性WGの活動については以下もご覧ください。

<http://www.jema-net.or.jp/Japanese/env/biodiversity.html>

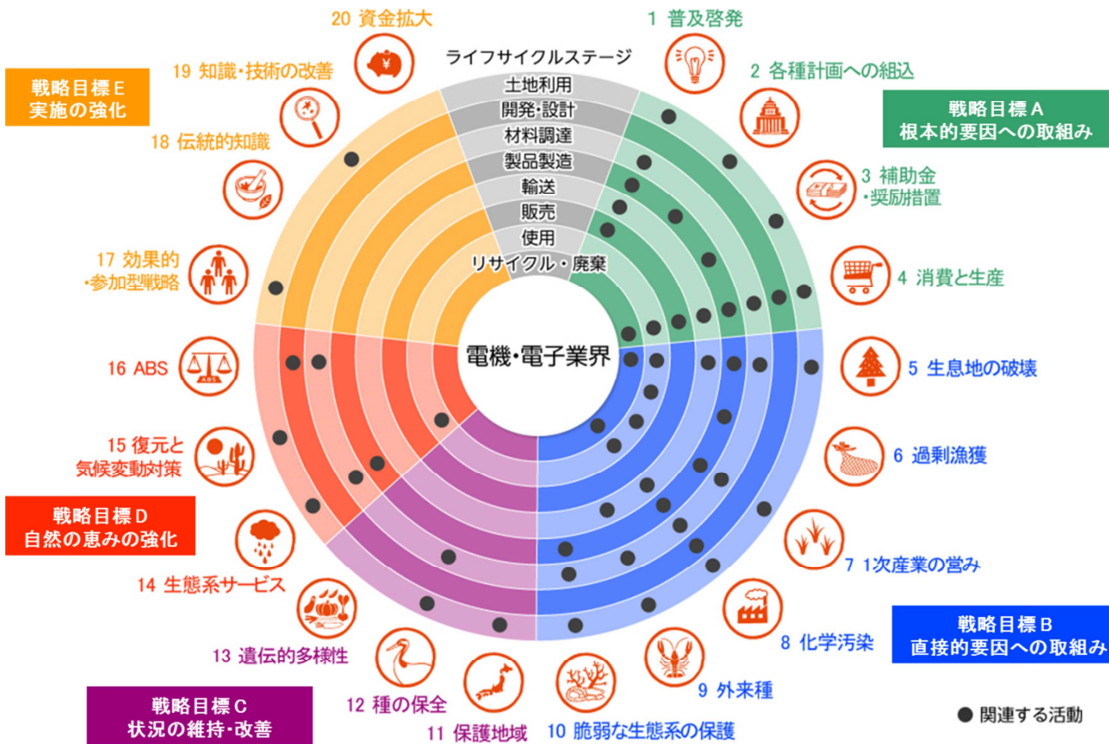
以上

<お問い合わせ先> 一般社団法人 日本電機工業会 環境部 (TEL: 03-3556-5883)




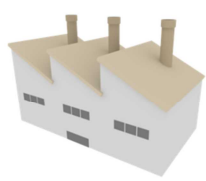

¹ 電機・電子4団体: 一般社団法人日本電機工業会 (JEMA)、一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会 (CIAJ)、一般社団法人電子情報技術産業協会 (JEITA)、一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会 (JBMIA)、

(別紙)

電機・電子業界の生物多様性保全活動と愛知目標の関連性を整理



電機・電子業界の活動と関連が高く取組みやすい愛知目標

愛知目標	電機・電子業界の取組み事例	
<p>目標1</p>  <p>教育・普及啓発 人々が生物多様性の価値と行動を認識する</p>	<p>教育・普及啓発活動の社内外での推進・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所立地の生態系調査内容の情報発信 ・営業活動を通じた顧客への意識啓発 ・自然観察会等による地域住民、社員等ステークホルダーへの意識啓発等 	
<p>目標4</p>  <p>生産と消費 すべての関係者が持続可能な生産・消費のための計画を実施する</p>	<p>持続可能な生産・消費に向けた取組みの推進・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自社の生物多様性に関する目標の策定 ・温室効果ガス排出削減、化学物質の適正管理、省資源化、生物多様性に配慮した事業所の緑地管理、輸送ルートを選択等多岐に渡る活動の実践 ・結果の社内外への情報発信が重要 	
<p>目標5</p>  <p>生息地の破壊 森林を含む自然生息地の損失が少なくとも半減、劣化・分断が顕著に減少する</p>	<p>生息地の保護や劣化と分断の低減取組みの推進・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性に配慮した事業所の緑地管理 ・事業所や周辺地域等での生態系ネットワークの構築、輸送ルートを選択、植林などの社会貢献活動等 	